

練馬・文化の会 会だより

共同代表：相川充弘 岡部昭 加藤久晴 小沼稜子 古賀義弘 田場洋和
事務局：森田彦一 TEL: 03-3951-4276 FAX: 03-3951-0616

(会費などの郵便振替：00150-7-130265 練馬・文化の会) ホームページ <http://www.nerimabunka.com/>

保守革新超えた「オール沖縄」に学び、練馬でも大きな連帯の輪を！ さまざまなイベント企画が目白押し：積極的に参加しましょう

ねりま9条の会など20前後の区内9条の会が中心になって「集団的自衛権」に反対するチラシ15万枚を配布し、大きく世論を喚起しようという取り組みが進んでいます。これには、区内の労働組合、住民・女性・市民団体、政党・会派が広く参加しています。

練馬はもともと住民運動が活発なことで知られていますが、残念ながら最近では保守区政に押さえつけられていました。ところが、消費税増税、原発再稼働、集団的自衛権の閣議決定などの安倍政権の暴走にストップをかけるために、この秋には様々な取り組みが企画されています。

主なものを別記に列挙しましたが、中央レベルでも様々な取り組みがあります。安倍政権に対抗するには、どれだけ人が集まるかが勝負どころです。積極的にご参加ください。

練馬・文化の会の「会だより」の今号は、こうした市民団体、組合などの区内の取り組みを紹介することを目的に、急ぎよ発行することにしたものです。

全国でも初の原水禁、原水協の共同イベントが誕生！

まず「オール沖縄」のスローガンのもとに11月の知事選が戦われる沖縄から糸数慶子さんを招いてのイベントが、10月8日にココネリで行われます。

これらイベントの中でも得筆されるのは、全国でも初めて原水禁、原水協による「第5福竜丸を知ってい

ますか？」が、11月8日にココネリで行われることです。

文化の会では、この「第5福竜丸」イベント実現に尽力した藤井牧師によるトークを10月22日に企画しました。

組合が主になり、市民と共同としての取り組みもあります。10月11日(土)に区職労中心の区民集会の全体会として元朝日新聞記者・竹信三恵子さんによる「女性を生きづらくさせるアベノミクス」が行われます。また12月5日(金)には都教組練馬主催で教育評論家の三上満さんによる「ねりま教育集会」があります。

2014年 平成26年 9月30日

<p>佐野市が内規で設けた承認基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 世論を二分し、一方に加担する内容でない 2 主観的な内容でない 3 営利を目的としない 4 宗教的色彩を有しない 5 政治的色彩を有しない 6 市民の不利益とならないもの 7 市民の誤解を招かないもの 	<p>市民団体が行うイベントなどの後援について、栃木県佐野市が新たに「政治的色彩を有しない」など7つの承認基準を内規として設けていたことが分かった。市行政経管課の担当者は、護憲派の市民グループの会</p>	<p>佐野市 「九条」講演 後援せず 「政治的」他自治体ならみ内規</p> <p>が背景にあるとみられる。市は四月一日に内規を新設。市内の護憲グループ「佐野九条の会」は同日、五日、「安倍政権のめざす「憲法改正」で日本はどうなるのか」「人類普遍の原理」から「天皇を戴く国</p>
<p>家「へ」と題する高橋哲哉・東大教授(哲学)の講演会の後援を申請した。しかし、市と市教委は五月、講師や演題から「政治的色彩を有するおそれがある」として不承認を決定。会場の使用は認められた。</p> <p>後援などを拒否する自治体の増加について、憲法集会の後援を神戸市に拒否された神戸学院大法科大学院</p>	<p>の上藤博之教授(憲法学)は「解釈改憲した安倍政権を意識した政治的動き。政治的中立を理由に憲法を守る集会を後援しないのは改憲勢力を利する極めて政治的な行為だ」と批判する。</p> <p>講演会は今日(二十八日)に市文化会館で開催された。本紙や朝日、毎日、下野新聞が後援した。</p>	

自治体のイベントへの後援拒否、施設拒否、広報紙掲載拒否の動き強まる 練馬でも各団体に呼びかけ、情報交換・論議の必要が・・・

東京新聞9月30日朝刊で「佐野市（栃木県）『9条』講演 後援せず」（別記記事参照）として、栃木の佐野市が、市民団体などが行うイベントについて、新たに「政治的色彩を有しない」など7つの基準を内規として設けていたことがわかったと報じています。埼玉の9条俳句の広報紙掲載拒否が報じられて以降、同種の動きが強まっ

ており、練馬区でも自治体側の監視強化の動きが伝えられています。ことは憲法の表現の自由などにもかかわり、まさに「戦争ができる国づくり」を目指すものとして、見逃すことができません。

とりあえずお互いの情報をもちより、意見交換の機会をつくる必要があります。

◇10月～12月の練馬区内の主なイベント◇

○10月5日（日）

前10時～正午 ココネリ3階 練馬区保育問題協議会主催「子ども子育て支援新制度を考えるシンポジウム」

コーディネーター・猪熊弘子（ジャーナリスト）

○10月8日（水）

午後6時半～ ココネリホール ねりま9条の会、練馬・文化の会など共催「沖縄の声を参議院議員 糸数慶子さんに聴く一辺野古STOPを！ 沖縄県知事選挙と集団的自衛権」

アトラクション・制服向上委員会

○10月11日（土）

前10時～正午 ココネリ研修室 区民集会全体会「女性を生きづらくさせるアベノミクス～“ブラック企業・非正規雇用・家事ハラスメント”記念講演・竹信三恵子（和光大学現代人間学部教授、元朝日新聞経済部記者）

○10月12日（日）

登戸研究所資料館見学会・前11時45分に小田急線「向ヶ丘遊園駅」北口改札集合 1時～3時に見学。山田朗先生がガイド。入館無料。見学後に練馬で小岩昌子さんを囲んで懇親会。

○10月22日（水）

午後7時～9時 ココネリ研修室 練馬・文化の会、練馬地域の会主催「“ビキニ事件”の関わりと核廃絶への私の思い」

トーク 藤井達郎（日本基督教団東京教区・教師、練馬コイノニア 集会・代表）

参加費500円（25歳以下100円）

○11月8日（土）

後2時～ ココネリホール 呼びかけ：原水禁・原水協、実行委員会主催「被ばく60周年 大石さんからのメッセージ 第5福竜丸を知っていますか？」 チケット：500円

○12月5日（金）

後6時半～8時半 ココネリホール 都教組練馬支部・主催 共催・生かそう1947教育基本法練馬連絡会議、ねりま教育集会「いまほんとうの教育を求めて」

資料代：500円

（都教組は同封の教育署名に取り組んでいます。友人・知人に呼びかけて、同封封筒でご連絡ください）

辺野古とジュゴン

田場祥子

8月24日～27日まで沖縄に行ってきました。24日、25日は那覇で孫のお守りに徹しました。26日早朝、平和市民連絡会の高江・辺野古への支援カーに乗せていただき、辺野古に出かけました。

沖縄の夏は海も空も青く輝いていました。23日の大集会の後なので、どうかと思いましたが座り込みの支援者は溢れていました。先日、船につけるピース旗を送りましたが、船につけて走るとすぐボロボロになるので、追加分30枚を持参しました。カヌーに乗って阻止行動をしている友人の言「ピース旗は虹色にきれいにひらめいて、この旗の船が来るとうれしくなります。」

辺野古の海上には、皆の反対で9年前に取り掃われたはずの檣が1基、今回もサンゴ礁を傷つけて海上に設置されていました。こんなに海に似合わないものはありません。人の命を危うくする海上保安庁のゴムボートも。

この輝く海で海上保安庁による暴挙がまたもや行われました。海上保安庁は海の安全を守るどころか暴力集団に成り下がってしまいました。9年前の海での市民と沖縄防衛局との闘いでは海保は1歩下がって市民側の安全も視野に入れる姿勢もありましたが、現政権の強硬姿勢がここでも顕れているようです。9人のカヌー隊が拘束され、そのうちの2人が巡視船・くにがみに運ばれたので、陸上で抗議をしていたメンバーの一人が駆けつけ、巡視船によじ登り2人を解放せよと迫りました。市民も辺野古漁港の護岸で抗議の声をあげました。抗議の末、2時間近くしてようやく9人は解放されました。果敢に闘って浜に帰ってきた彼らをみなが拍手で迎えました。

浜で開かれた報告集会では次のような報告がありました。「カヌーで抗議をしていると海上保安庁のゴムボートに体当たりされたので、ひとたまりもなく転覆して海中へなげ出された。」「海保

の職員がゴムボートからカヌーに飛び移り、カヌーをひっくり返し、首ねっこを抑えて溺れさせようとした」「海面に浮上しようとする頭を上から押さえこみ、ゴムボートへひき揚げられた」こうして7人を拘束したと聞いてそんなことありなの？海保って何なの？カヌーに乗っていた女性は「眼鏡が曲がり、カメラは引っ張られ、鎖を壊された。海中に落とされ、捕まえられてしばらく息ができなかった」、テントにむち打ち症のためのギブスをしている若者がいますが、彼は何日か前、やはり海保の職員に痛めつけられたのだそうです。



辺野古基地反対の座り込み
(キャンプシュワブ第一ゲート前)

海上保安庁はカヌー隊が制限水域内に入ったので聴取したように言っていますが、海保の行ったことは聴取ではなく拘束でした。海上保安庁法第2条：海上での任務は海難救助、船舶航行の秩序の維持、海上犯罪の予防および鎮圧、船舶交通に関する規制など。辺野古埋め立て取り消し訴訟・池宮城紀夫弁護団長の弁「海上での市民の抗議行動は憲法で保障された表現行為であって海上保安庁法第2条に該当しない」(琉球新報) のだそうです。

29日、参議院議員会館内で院内集会「辺野古

基地はいらない！海保の過剰警備は間違いだ一緊急行政交渉」で海上保安庁・防衛省の担当官に、福島瑞穂議員が拘束した法的根拠を質しましたが、当局ははっきりとした根拠を答えることはできませんでした。拘束の法的根拠をしめせないのですから抗議を続けて行きましょう。

20艇のカヌー、100艇のカヌーを目指してカンパを募っていきましょう！！

27日は6時半には宿を出て辺野古のテントへ。ミーティングの後、テント準備を終え、その後キャンプ・シュワブの工事用車両専用ゲート前のテント張りに参加、歩道の一部を通行の妨げにならぬよう空けて、ブルーシートや葦簀で日よけのテントを張ります。毎日張って、毎日片づけるのです。大勢の手でピンと張った立派な日除けができました。

暑い！暑い！座っているだけでダラダラと汗が流れます。私も含め高齢者の多いこと、若者は働いている時間なので当然ですが、水分補給、塩飴が欠かせません。沖縄らしく差し入れにグアバ、パイナップルが回ってきます。

海上でのカヌー隊への応援行動に船に乗る人を募っていました。乗りたい気持ちはやまやまですが、若い方に譲りました。集まった市民は強い日差しのゲート前で、タンバリンを鳴らしシュプレヒコールをあげ、楕円を描きながらの抗議行動を行いました。

ゲート前に来られた沖縄大学の名誉教授・桜井国俊さんのお話は圧巻でした。27日の琉球新報にも”宝中の宝を壊す愚行”と掲載されていますが、「若者たちに郷土沖縄の近現代史を学んでほしい。

普天間基地は何もないところに米軍が建設し、

その後人々が仕事を求めて基地の周りに集まってきたと信じている若者が少なくない。危険に近づいてきた人々の方こそが悪いと思込まされている。」というのです。「また、沖縄の地球史・生命史を沖縄に暮らすすべての人に学んでほしい。」と訴えられました。沖縄の島々は地球史・生命史上の奇跡として生み出された宝石のような存在なのだそうです。やんばるの森・辺野古・大浦湾は世界自然遺産登録候補の筆頭、辺野古・大浦湾は厳正な保護が必要なランク1の自然であると沖縄県自らが指定した海であるのに、そこに基地を作るとは、どう整合性を取るのでしょうか。

防衛省は海を荒らしてジュゴンのはみあと（藻を食べた跡）を消しておいて「ジュゴンはいない」といっていますが、22日、日本テレビ、26日NHKニュースでジュゴンの映像が流されました。

桜井さんはジュゴンが現れたという情報に「自分はここにいるよ」とジュゴンが自ら存在を示しに来たのでしょうかと言われました。本当にうれしいニュースでした。

27日午後、本部在住の方の車で国頭郡東村高江に行ってきました。辺野古に抗議する人が集中しているせいか、出会う車も少なく、高江がひっそりとして見えました。

今年の1月に1時間ほど訪れたきりのわたしですが、久しぶりの私に、「来たの！」と座り込みの人たちがあたたかく迎えてくれました。たゆまぬ座り込みに頭が下がります。

9月に行われた名護市議選は革新与党が過半数を収め、東村高江の村議選も「高江にヘリパッドはいらない」を掲げる村議が誕生しました。

皆さま、幹事会に出席して、交流・議論の活発化を！

次回の幹事会は、規約改正、今後のイベント内容、新年会の検討などをテーマに10月20日（月）午後6時半より豊玉リサイクルセンターで行われます。

どなたも出席自由です。是非ご参加ください。